

公開実用 昭和63- 41470

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 昭63-41470

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)3月18日

B 24 D 15/04

A-6826-3C

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 研磨、汚れ落とし用具

⑯ 実 願 昭61-72640

⑰ 出 願 昭61(1986)5月16日

⑱ 考 案 者 江 村 章 東京都千代田区神田須田町1-28-2 八千代マイクロサイエンス株式会社内

⑲ 出 願 人 八千代マイクロサイエンス株式会社 東京都千代田区神田須田町1-28-2

⑳ 代 理 人 弁理士 藤 吉 繁

明 細 書

1. 考案の名称

研磨、汚れ落とし用具

2. 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂発泡体製の芯材 2 の周囲を水密性を有する合成樹脂表皮層 3 で被覆した基体 1 の表面に、一方の面に研磨あるいは汚れ落とし材の層 5 を、他方の面に粘着剤層 6 を有するシート状のパッチ部材 4 を貼着させたことを特徴とする研磨、汚れ落とし用具。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は、研磨、汚れ落とし用具、詳しくは、物体の表面を研磨したり、物体の表面に付着した汚れを落す為に用いる用具に関するものである。

〔従来の技術〕

物体の表面の研磨、汚れ落としは日常広く行われており、砥石、金属ウール、サンドペーパー、スポンジ、等の研磨、汚れ落とし具やクレンザー、コンパウンド、羽布剤等、の研磨、汚れ落とし剤が用

途に応じて用いられている。

〔考案が解決しようとする問題点〕

しかしながら、従来から用いられている研磨、汚れ落とし具や研磨、汚れ落とし剤には下記の通りの問題点が存在している。

即ち、一般家庭において広く用いられているタワシ、スポンジ等は、使用の際水を使う為、水に浸った状態にあることが多く、汚れも浸み込みやすく、不衛生になりがちであり、又美感上からも問題があった。又、サンドペーパー、クレンザー、コンパウンド、羽布剤等は、擦り補助具を使用しているがこの擦り補助具はその都度便宜的に使用しているにすぎず、必ずしも十分にその有する機能を発揮させるには至っていなかった。更に、一つの用具で複数の用途を兼ねることはできず、例えばフライパン等の研磨、汚れ落としと、キズの付きやすいプラスチック製品表面の汚れ落としとを、同じ用具で行うことは不可能であった。

この考案は、上記従来の研磨、汚れ落とし具や研磨、汚れ落とし剤の欠点を除去することを目的とす

るものであり、水切れが良く、不衛生にならず、
外観も良好で複数の用途に用いることができる全
く新しい研磨、汚れ落とし用具を提供せんとするも
のである。

〔問題点を解決する為の手段〕

この考案は、合成樹脂発泡体製の芯材 2 の周囲
を水密性を有する合成樹脂表皮層 3 で被覆した基
体 1 の表面に、一方の面に研磨あるいは汚れ落とし
材の層 5 を、他方の面に粘着剤層 6 を有するシー
ト状のパッチ部材 4 を貼着させることにより、上
記目的を達成せんとするものである。

〔作用〕

基体 1 の表面に用途に応じたパッチ部材 4 を貼
着し、このパッチ部材 4 の表面に形成された研磨
あるいは汚れ落とし材の層 5 を物体の表面に擦り当
てて、研磨、汚れ落としを行うものであり、パッチ
部材 4 は基体 1 から容易に着脱でき、用途に応じ
て最適なパッチ部材 4 を選択し、常に良好な状態
で、研磨、汚れ落としを行うことができる。又、基
体 1 の外面は水密性を有する合成樹脂表皮層 3 で

被覆されているので、内部に水が浸入することなく、常にドライに保たれ、不衛生になることもない。更に、合成樹脂表皮層 3 には模様、文字等を印刷したり、彩色を施しても良く、購売意欲を刺激する様な外観にすることも可能である。

〔実施例〕

第 1 図はこの考案に係る研磨、汚れ落とし用具の一実施例の斜視図、第 2 図はその断面図である。図中 1 は直方体状をした基体であり、合成樹脂発泡体製の芯材 2 の周囲を水密性を有する合成樹脂表皮層 3 で被覆することにより構成されている。前記芯材 2 は、変形量の少ない発泡スチロール等の合成樹脂発泡体 2 a の周囲を弾性に富んだスポンジ状の合成樹脂発泡体 2 b で覆った二層構造となっている。

基体 1 は、この実施例においては直方体状としたが、立方体状、円柱状、角柱状等いかなる形状でも良く、用途、デザインに応じて自由に選択することができる。又、合成樹脂表皮層 3 はフィルム状のものや、それより厚いシート状のものなど

を用いることができるが、水密性を有することが必要であり、又、使用の際の押圧、摩擦、弾性変形に耐えうる柔軟性、強靱性を有する表材が望ましい。更に、芯材 2 の中央部分を構成している合成樹脂発泡体 2 a は基体 1 に腰を持たせ、過度の変形を防ぐ為のものであり、適度の弾性を有し、腰のある素材の場合には、第 3 図に示すものの様にスポンジ状の合成樹脂発泡体 2 b を省略しても良い。更に、前記基体 1 の表面には、第 4 図に示す様に、一方の面に研磨あるいは汚れ落とし材の層 5 を、他方の面には粘着剤層 6 をそれぞれ設けたシート状のパッチ部材 4 が貼着せしめられている。このパッチ部材 4 の研磨あるいは汚れ落とし材の層 5 としては、砥粒をバインダーによって固定したもの、金属メッシュを接着したもの、羽布を接着したもの等、用途に応じて種々のものを用いることができる。更に、その形状も方形のもの、円形のもの、小判形のもの等、自由に選ぶことができる。

〔考案の効果〕

985

975

この考案に係る研磨、汚れ落とし用具は上記の通りの構成を有するものであり、パッチ部材を物体に擦り当てて、研磨あるいは汚れ落としを行うものであり、基体は水密性を保持しており、吸水性がない為、水切れが良く、汚れが浸み込むことがなく、常に清潔に保たれ、従来のスポンジ、タワシなどの様に不衛生になることがない。又、用途に応じたパッチ部材を選ぶことにより、一つの基体で種々の研磨、汚れ落とし作業に用いることができ、基体には適度な弾性と腰がある為、均一な押圧力が擦り表面に伝達され、パッチ部材がむらなく物体表面に接し、良好な研磨、汚れ落とし効果を得ることができる。更に、基体は合成樹脂発泡体で構成されており、極めて軽量であり、持ちやすく、使い勝手が良く、表面に彩色、模様等を施すことにより、装飾的效果を持たせることもできる。又、パッチ部材を取り換えることにより、いつまでも使用することができ、極めて経済的であり、家庭用、業務用を問わず、有効に利用し得るすぐれた効果を有する。

986

976



4. 図面の簡単な説明

図面はこの考案に係る研磨、汚れ落とし用具の実施例を示したものであり、第1図はその外観の斜視図、第2図はその断面図、第3図は他の実施例の断面図、第4図はパッチ部材の断面図である。

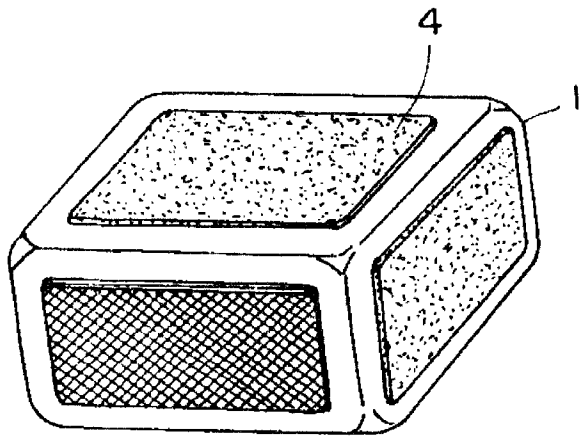
1…基体、2…芯材、3…合成樹脂表皮層、2a…合成樹脂発泡材、2b…スポンジ状の合成樹脂発泡体、4…パッチ部材、5…研磨あるいは汚れ落とし材の層、6…粘着剤層。

代理人 弁理士 藤 吉 繁

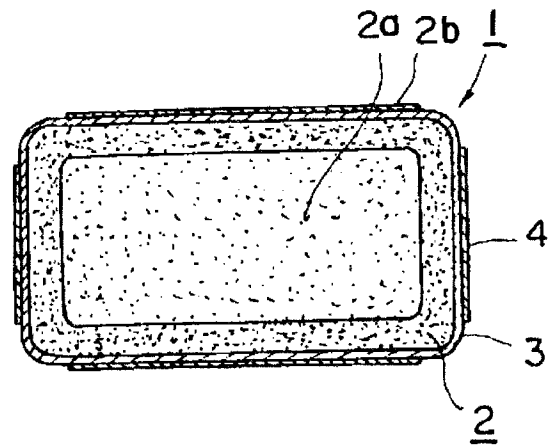
987

977

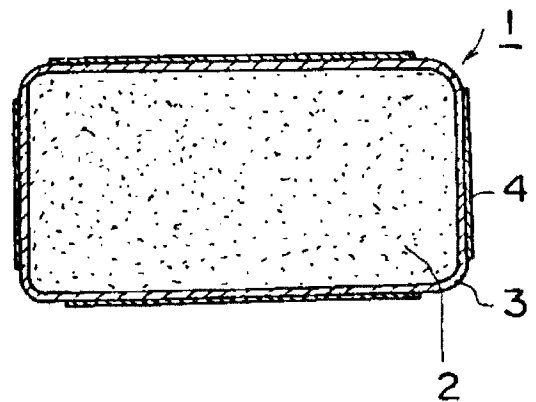
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

